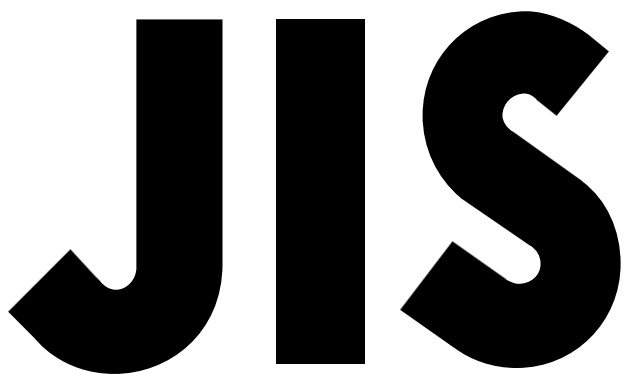




鉄鉱石－硫黄定量方法－
第 3 部：高周波誘導加熱－赤外線吸収法

JIS M 8217-3 : 2020

(JISF)

令和 2 年 2 月 20 日 制定

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 金属・無機材料技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	木 村 一 弘	国立研究開発法人物質・材料研究機構
(委員)	天 谷 義 則	一般社団法人日本アルミニウム協会
	井 上 謙	一般社団法人日本産業機械工業会
	鎌 土 重 晴	一般社団法人日本マグネシウム協会（長岡技術科学大学）
	組 田 良 則	一般社団法人日本建設業連合会（株式会社フジタ）
	倉 品 秀 夫	公益社団法人自動車技術会（三菱自動車工業株式会社）
	篠 崎 和 夫	東京工業大学名誉教授
	種物谷 宣 高	高圧ガス保安協会
	須 山 章 子	一般社団法人日本ファインセラミックス協会（東芝エネルギーシステムズ株式会社）
	田 中 一 彦	一般社団法人日本電機工業会
	寺 澤 富 雄	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	廣 本 祥 子	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	藤 田 篤 史	ステンレス協会（日本冶金工業株式会社）
	水 沼 渉	一般社団法人日本溶接協会
	山 口 富 子	九州工業大学
	吉 田 仁 美	一般財団法人建材試験センター

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：令和 2.2.20

官 報 掲 載 日：令和 2.2.20

原 案 作 成 者：一般社団法人日本鉄鋼連盟

（〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館 TEL 03-3669-4826）

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会（部会長 酒井 信介）

審議専門委員会：金属・無機材料技術専門委員会（委員長 木村 一弘）

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課（〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1）にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 一般事項	2
4 要旨	2
5 試薬	2
6 装置, 器具及び材料	3
7 試料のはかりとり	3
8 操作	3
8.1 装置の調整	3
8.2 定量操作	4
9 空試験	4
10 検量線の作成	4
11 計算	6
12 許容差	6
附属書 JA (参考) JIS と対応国際規格との対比表	7
解 説	12

まえがき

この規格は、産業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本鉄鋼連盟（JISF）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を制定すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本産業規格である。これによって、**JIS M 8217:1994** は廃止され、その一部を分割して制定したこの規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

JIS M 8217 の規格群には、次に示す部編成がある。

JIS M 8217-1 第 1 部：鉄抽出分離硫酸バリウム重量法

JIS M 8217-2 第 2 部：熱分解－よう素酸カリウム滴定法

JIS M 8217-3 第 3 部：高周波誘導加熱－赤外線吸収法

鉄鉱石—硫黄定量方法—

第 3 部：高周波誘導加熱—赤外線吸収法

Iron ores—Determination of sulfur— Part 3: Infrared absorption method after heating in an induction furnace

序文

この規格は、2017 年に第 3 版として発行された **ISO 4689-3** を基とし、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

1 適用範囲

この規格は、鉄鉱石中の硫黄定量方法のうち、高周波誘導加熱—赤外線吸収法について規定する。

この方法は、鉄鉱石中の硫黄含有率（質量分率）0.002 %以上 0.10 %以下の定量に適用する。ただし、赤外線吸収測定装置の集じん管部に加熱機構のある装置の場合は、鉄鉱石中の化合水含有率（質量分率）が 3.0 %以上、また加熱機構のない装置の場合は、鉄鉱石中の化合水含有率（質量分率）が 1.0 %以上の試料には適用できない。

注記 1 JIS M 8217 の規格群の定量範囲を表 1 に示す。

表 1—JIS M 8217 規格群の定量範囲

規格番号	定量範囲 [質量分率 (%)]
JIS M 8217-1	0.01 以上 1.0 以下
JIS M 8217-2	0.002 以上 1.0 以下
JIS M 8217-3	0.002 以上 0.10 以下

注記 2 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 4689-3:2017, Iron ores—Determination of sulfur content—Part 3: Combustion/infrared method (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1** に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。